

みどりの大使が行く!



2024
ミス日本
みどりの大使
安藤 きらり

緑の羽根着用キャンペーン

首相官邸で行われた緑の羽根着用キャンペーンに参加して、岸田総理に緑の羽根を着けさせていただきました。



緑の羽根着用キャンペーン

4月15日からの1ヶ月はみどりの月間です。その開始日にこのような機会に同席でき、光栄に感じています。緑の羽根は、緑の募金の象徴とも言えます。総理に着用いただくことで、多くの方々が緑の募金を知ってくださると思います。

総理から緑の募金の一部が能登半島地震の被災地支援に使われていることについて言及があり、私からは被災地にお届けした「組手仕」のお話をしました。総理は組手仕の实物をみながら「どうやって組み立てるのか」と聞かれ、「木槌を使って」「こここの溝を合わせて」と、私から組立方法をご説明いたしました。

総理が大変熱心に耳を傾けてくださったことが、とても嬉しかったです。

被災地を訪れて

3月末に、緑の募金による支援活動のために能登半島を訪問しました。組手仕は避難所で活躍しておりました。

共有空間では、食品の棚にしたり、靴箱にしたり、大型の棚として使われています。避難者のプライベートスペースでは、飲み物やライトを置くサイドテーブルにしたり、幅広い用途で細かく活用されていました。

組手仕には、希望のサイズに木を切るだけで、自分オリジナルのものを作れるという自由さがあります。また、子供、女性、高齢者の方でも、簡単に組み立てられると

いうメリットがあります。一人でも組み立てられますが、何人かで和気あいあいと組み立てることで人と人が繋がるのも素敵なことだと思います。



組手仕を組み立てる

被災者のみなさんが一緒になって、楽しい空気で組み立てていたことが印象的でした。

これまで何度か林業の現場を視察させていただいた中で、この木々がどのように形を変えて、人々の役に立つのだろうと考える場面が幾度もありました。

今回、森林から作られた組手仕により「助かってるよ〜」という被災者の方の言葉を聞いて、言葉では言い表せない感銘を受けました。木を通じて、多くの人が喜んでくれることを、林業に関わる皆様には勿論、広く世の中の皆様にお伝えしたいと思いました。



被災地に届けられた組手仕

緑の募金の呼びかけ

緑の募金の被災地支援は組手仕だけでなく、これからは仮設住宅を緑化したり、被災地周辺の林業を助けることにも使われていきます。

私は、日本の森林や林業を助ける緑の募金の呼びかけをこれからも続けます。その際には、能登の皆様にも心を寄せて参りたいと思います。

皆さん、一緒に頑張りましょう。